

年間指導計画表(シラバス)

科目名	福祉・社会福祉基礎	単位数	2(通年)
		学年等	平日登校コース・2年次

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1) 社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の意義や役割、対人援助や社会福祉制度の基礎的事項を理解することができる。また、少子高齢化時代の我が国の今後の社会構造について、財政や政策等、他教科と関連させながら考えることができる。 (2) 社会福祉に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、社会構造の変容やライフスタイルの変化などによる社会福祉への影響を考察し、表現することができる。昨今の福祉を取り巻く情勢について、自身の意見を簡潔にレポートにまとめることができる。 (3) 授業での学びだけではなく、テレビや新聞記事等から積極的に情報収集を行い、厚生労働省や広島県・広島市の政策、サービスについて、幅広い知識を身に付けるなど、積極的に自ら探究することができる。
使用教科書 副教材等	社会福祉基礎(実教出版) 介護職員初任者研修テキスト(公益財団法人介護労働安定センター)

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の意義や役割、対人援助や社会福祉制度の基礎的事項を理解しようとしている。また、少子高齢化時代の我が国の今後の社会構造について、財政や政策等、他教科と関連させながら考えることができる。	社会福祉に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、社会構造の変容やライフスタイルの変化などによる社会福祉への影響を考察し、表現することができる。昨今の福祉を取り巻く情勢について、自身の意見を簡潔にレポートにまとめることができる。	授業での学びだけではなく、テレビや新聞記事等から積極的に情報収集を行い、厚生労働省や広島県・広島市の政策、サービスについて、幅広い知識を身に付けるなど、積極的に自ら探究しようとする。
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	[1 編 社会福祉の理念と意義] ・生活と福祉 ・福祉の理念 ・人間の尊厳 [2 編 社会福祉の歴史と次代の展望] ・諸外国と日本における社会福祉 [3 編 生活を支える社会福祉・社会保障制度] ・社会保障制度の意義と役割 ・子ども家庭福祉 ・障害者福祉 ・高齢者福祉と介護保険制度	・定期考査等 ・小テスト ・レポート	・定期考査等 ・小テスト ・レポート	・授業・実習での行動観察 ・提出課題
	評価点	100 点	100 点	100 点
後期	[4 編 人間関係とコミュニケーション] ・コミュニケーションの基礎 ・支援における人間関係の形成 [5 編 地域福祉の進展と多様な社会的支援制度] ・多様な社会的支援制度 ・地域福祉の進展と地域の将来	・定期考査等 ・小テスト ・レポート	・定期考査等 ・小テスト ・レポート	・授業・実習での行動観察 ・提出課題
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔1 編 社会福祉の理念と意義〕 ・生活と福祉 ・社会福祉の理念	6
	5	・人間の尊厳と新たな福祉社会の創造 (スタディ)ライフスタイルの変化について 〔2 編 社会福祉の歴史と次代の展望〕 ・諸外国における社会福祉	13
	6	・日本における社会福祉 (スタディ)私たちのまちを調べる	
	7	〔3 編 生活を支える社会福祉・社会保障制度〕 ・社会保障制度の意義と役割 ・子ども家庭福祉 ・障害者福祉 ・ICF モデル ・障害者福祉の法制度 ・身体、知的、精神障害 ・総合支援法について	12
	8	・高齢者福祉と介護保険制度 ・介護保険制度 ・生活支援のための公的扶助 ・国民の生活を支える社会保険制度	
	9	(スタディ)社会福祉の歴史にかかわる人物 前期期末考査	1
		前期の学習のまとめ	3
後期	10	〔4 編 人間関係とコミュニケーション〕 ・コミュニケーションの基礎 ・コミュニケーションの意義と役割 ・コミュニケーションの手段と方法 ・支援における人間関係の形成 ・傾聴、受容、共感の姿勢 ・利用者理解と支援者の自己理解 ・社会福祉における支援活動の概念	16
	11	・個人やグループ、家族に対する支援活動 ・チームワークとリーダーシップ (スタディ) ボランティア活動に挑戦	
	12	〔5 編 地域福祉の進展と多様な社会的支援制度〕 ・多様な社会的支援制度 ・医療提供体制 ・特別支援教育 ・司法と福祉 ・成年後見制度	16
	1	・地域福祉の進展と地域の将来 ・福祉のまちづくり ・地域社会とボランティア	
	2	(スタディ)だれもが住みやすそうな地域	
		後期期末考査	1
	3	後期の学習のまとめ	2

5 その他

社会福祉や地域福祉に関する基本について詳しく学びます。対人援助、介護に関わる法律や制度、社会システムについての内容です。専門用語や介護用語の知識を身に付け、生活支援技術と関連付け、積極的に学習を進めましょう。この科目は介護職員初任者研修の履修内容です。定期考査では、70%以上の得点を目標とし、介護職員初任者研修における学習事項と並行して理解を図りましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	福祉・介護福祉基礎	単位数	2(通年)
		学年等	平日登校コース・3年次

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	(1) 介護福祉の基礎的な資質・能力を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 (2) 介護に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な介護の実践に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
使用教科書 副教材等	介護福祉基礎(実教出版) 介護職員初任者研修テキスト(公益財団法人介護労働安定センター)

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	介護福祉の基礎的な資質・能力を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。	介護に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な介護の実践に主体的かつ協働的に取り組もうとする。
評価点	300点	300点	300点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1編 介護の意義と役割 ○尊厳を支える介護 ○自立に向けた支援 第2編 介護福祉の担い手 ○介護従事者をとりまく状況 ○介護従事者の役割と介護福祉士 ○介護従事者の倫理 ○介護実践における連携	・定期考査 ・小テスト ・レポート	・定期考査 ・小テスト ・レポート	・授業での行動観察 ・提出課題
	評価点	150点	150点	150点
後期	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 ○介護を必要とする人と生活環境 ○高齢者・障害者の生活と支援 ○介護を必要とする人の生活を支える支援 ○介護福祉サービスの概要 ○介護過程 第4編 介護における安全確保と危機管理 ○介護における安全と事故対策 ○介護従事者の健康管理 ○感染対策、福祉用具と介護ロボット	・定期考査 ・小テスト ・レポート	・定期考査 ・小テスト ・レポート	・授業での行動観察 ・提出課題
	評価点	150点	150点	150点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	第1編 介護の意義と役割 ○尊厳を支える介護 基本的人権、尊厳、利用者本位の介護サービス	8
	5	○自立に向けた支援 自立支援、ICF、介護予防、リハビリテーション	
		第2編 介護福祉の担い手	8
	6	○介護従事者をとりまく状況 介護福祉士、介護人材の確保	
		前期中間考査	1
		○介護従事者の役割と介護福祉士	14
	7	介護福祉士の専門性、災害時における支援、終末期における役割 ○介護従事者の倫理 専門職の倫理、専門職としての基本姿勢、プライバシーの保護	
	8	○介護実践における連携	
	9	多職種連携とチームケア、ボランティアとの連携	
		前期期末考査	1
		前期の学習のまとめ	3
後期	10	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 ○介護を必要とする人と生活環境 バリアフリー、ユニバーサルデザイン ○高齢者・障害者の生活と支援 高齢者の身体の特徴、肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害、知的障害、精神障害	16
	11	○介護を必要とする人の生活を支える支援 観察、コミュニケーション、介護技術の基本 ○介護福祉サービスの概要 介護保険制度、障害者総合支援法 ○介護過程	
	12	後期中間考査	1
		第4編 介護における安全確保と危機管理	6
	1	○介護における安全と事故対策 リスクマネジメント、身体拘束、防災対策	
		○介護従事者の健康管理 心理面・健康面の健康管理	9
	2	○感染対策、福祉用具と介護ロボット	
		後期期末考査	1
	3	後期の学習のまとめ	2

5 その他

介護職員初任者研修の学習内容とともに、介護に対するイメージについて実習を通して、具体化できるよう積極的に授業に参加してください。授業では毎回レポートを提出し、学習の理解度を評価していきます。定期考査では、70%以上の得点を目標とし、介護福祉に関する知識や技術を身に付けていきましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	福祉・コミュニケーション技術	単位数	2(通年)
		学年等	平日登校コース・1年次

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	(1) 福祉や介護現場で活用されるコミュニケーション技術の知識や理論に加え、高齢者や支援が必要な方々に対するさまざまな場面で実践できる知識と技術を身に付け、活用することができる。 (2) 手話や点字などさまざまなコミュニケーションに関する知識・技術などを活用し、受講生同士や授業担当者との挨拶や会話表現を表現することができる。あわせて、福祉現場では必須のスキルである、記録や報告連絡相談の実践についても、その場に応じて対応することができる。 (3) ICF(国際生活機能分類)に則ったコミュニケーション技術について理解するとともに、相手の価値観や意思を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲をもつことができる。また、自身の考えや思いを伝えようとする主体性をもちながら、それぞれの実践に取り組むことができる。
使用教科書 副教材等	コミュニケーション技術(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	福祉や介護現場で活用されるコミュニケーション技術の知識や理論に加え、高齢者や支援が必要な方々に対するさまざまな場面で実践できる知識と技術を身に付け、活用することができる。	手話や点字などさまざまなコミュニケーションに関する知識・技術などを活用し、受講生同士や授業担当者との挨拶や会話表現を表現することができる。あわせて、福祉現場では必須のスキルである、記録や報告連絡相談の実践についても、その場に応じて対応することができる。	ICF(国際生活機能分類)に則ったコミュニケーション技術について理解するとともに、相手の価値観や意思を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲をもっている。また、自身の考えや思いを伝えようとする主体性をもちながら、それぞれの実践に取り組もうとする。
評価点	300 点	300 点	300 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1編 福祉実践におけるコミュニケーション 第1章 コミュニケーションの意義と役割 第2章 コミュニケーションの基本技術 第2編 サービス利用者や家族とのコミュニケーション 第1章 サービス利用者や家族との関係づくり 第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション	・定期考査等 ・学習課題等 ・授業・実習での行動観察	・定期考査等 ・学習課題等 ・授業・実習での行動観察	・学習プリント等 ・授業・実習での行動観察
	評価点	150 点	150 点	150 点
後期	第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション 第3編 福祉実践におけるチームのコミュニケーション 第1章 記録 第2章 チームによる連携	・定期考査等 ・学習課題等 ・授業・実習での行動観察	・定期考査等 ・学習課題等 ・授業・実習での行動観察	・学習プリント等 ・授業・実習での行動観察
	評価点	150 点	150 点	150 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	第1編 福祉実践におけるコミュニケーション 第1章 コミュニケーションの意義と役割	8
	5	人間の理解と人間関係、コミュニケーションの基礎	
		第2章 コミュニケーションの基本技術	8
	6	言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション 受容と共感	
		 前期中間考査	1
		第2編 サービス利用者や家族とのコミュニケーション	10
	7	第1章 サービス利用者や家族との関係づくり サービス利用者や家族との関係	
	8	第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション	4
	9	高齢者とコミュニケーション	
		 前期期末考査	1
		前期の学習のまとめ	3
後期	10	第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション 障害のある人とのコミュニケーション 認知症の人とのコミュニケーション	16
	11	第3編 福祉実践におけるチームのコミュニケーション 第1章 記録 記録の意義と目的、種類 記録の方法と管理	
	12	 後期中間考査	1
		第2章 チームによる連携	7
	1	チームのコミュニケーション コミュニケーション演習	8
	2		
		 後期期末考査	1
	3	後期の学習のまとめ	2

5 その他

高齢者や障害者に関わる福祉の基礎的知識を学ぶとともに、自分についてよく理解しながら他者についても理解していきましょう。発表やペアワーク、グループワークでは協力して演習等を行いながら、対人関係や援助におけるコミュニケーションについて学びます。介護職員初任者研修を目指す生徒は履修するようにしましょう。定期考査では70%以上の得点を目標とし、コミュニケーション技術の基礎事項について理解しましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	福祉・生活支援技術①	単位数	2(通年)
		学年等	平日登校コース・2年次

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1) 授業での学びだけではなく、テレビや新聞記事等から積極的に情報収集を行い、介護者としての考え方や接し方を身に付けるとともに、家族や親戚など、身近な高齢者の生活課題や、教科書等の事例から、アセスメントし、社会資源につなげる方法を理解することができる。 (2) 生活支援技術について基礎的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として思考を深め、適切に判断し、表現することができる。「こころとからだの理解」と関連させて介護実践に適切に活用し、介護の根拠を考え、自身の考えをまとめることができる。 (3) 生活支援技術について関心を持ち、意欲的に学ぶとともに、生活支援技術に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して、身体介護、生活支援におけるさまざまな福祉用具、設備等について、既習事項と関連させながら考えることができる。
使用教科書 副教材等	生活支援技術(実教出版) 介護職員初任者研修テキスト(公益財団法人介護労働安定センター)

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	授業での学びだけではなく、テレビや新聞記事等から積極的に情報収集を行い、介護者としての考え方や接し方を身に付けるとともに、家族や親戚など、身近な高齢者の生活課題や、教科書等の事例から、アセスメントし、社会資源につなげる方法を理解することができる。	生活支援技術について基礎的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として思考を深め、適切に判断し、表現することができる。「こころとからだの理解」と関連させて介護実践に適切に活用し、介護の根拠を考え、自身の考えをまとめることができる。	生活支援技術について関心を持ち、意欲的に学ぶとともに、生活支援技術に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して、身体介護、生活支援におけるさまざまな福祉用具、設備等について、既習事項と関連させながら考えようとする。
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	〔第1編 生活支援の理解〕 第1章 生活の理解 第2章 生活支援の考え方 第3章 生活支援と介護過程 第4章 多職種協働と他の専門職の役割 〔第2編 自立に向けた生活支援〕 第1章 居住環境の整備 第2章 家事の支援 ○介護職員初任者研修オリエンテーション	・実技試験 ・小テスト等 ・レポート	・実技試験 ・小テスト等 ・レポート	・授業・実習での行動観察 ・提出課題
	評価点	100 点	100 点	100 点
後期	○こころとからだのしくみと生活支援技術 ・移動の支援 ・睡眠の支援 ・身じたくの支援 ・生活支援技術演習 ・事例による展開 ・生活支援に向けたアセスメント	・実技試験 ・小テスト等 ・レポート	・実技試験 ・小テスト等 ・レポート	・授業・実習での行動観察 ・提出課題
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔第1編 生活支援の理解〕 第1章 生活の理解	3
	5	第2章 生活支援の考え方	3
		第3章 生活支援と介護過程	3
		第4章 多職種協働と他の専門職の役割	3
	6	〔第2編 自立に向けた生活支援〕 第1章 居住環境の整備	3
		第2章 家事の介護	3
		<u>○介護職員初任者研修オリエンテーション</u> ・職務の理解	1
	7	<u>介護における尊厳の保持・自立支援</u>	14
	8	・生活支援の理解	
	9	・生活支援に向けたアセスメント	
		前期の学習のまとめ ・前期に学んだ介護職員初任者研修内容理解の確認	2
後期	10	<u>○こころとからだのしくみと生活支援技術</u> ・移動の支援	16
	11	・睡眠の支援 ・身じたくの支援	17
	12	・生活支援技術演習	
		・事例による展開	
	1	・生活支援に向けたアセスメント	
	2		
	3	後期の学習のまとめ ・後期に学んだ介護職員初任者研修内容理解の確認	2

5 その他

対人援助における基礎的な知識と技術を身に付けるため、グループワーク、演習、校内実習があります。例えば、衣服の着脱や体位交換など、身体接触をとまなう実習もあります。専門用語や、介護用語の知識を身に付け、こころとからだの理解と関連付けて学んでください。介護職員初任者研修の学習内容に係る履修内容には、下線を引いています。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	福祉・生活支援技術②	単位数	2(通年)
		学年等	平日登校コース・3年次

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	(1) 自立に向けた生活支援に必要な資質・能力をサービス利用者主体の生活と関連させながら体系的・系統的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して、関連する技術を身に付けることができる。 (2) 自立に向けた生活支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、解決することができる。 (3) 尊厳の保持や自立支援に根ざした豊かな生活に向けた支援を行うため、福祉の見方・考え方を働かせ、主体的かつ協働的に取り組むことができる。
使用教科書 副教材等	生活支援技術(実教出版) 介護職員初任者研修テキスト(公益財団法人介護労働安定センター)

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自立に向けた生活支援に必要な資質・能力をサービス利用者主体の生活と関連させながら体系的・系統的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して、関連する技術を身に付けることができる。	自立に向けた生活支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、解決することができる。	尊厳の保持や自立支援に根ざした豊かな生活に向けた支援を行うため、福祉の見方・考え方を働かせ、主体的かつ協働的に取り組もうとする。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	〔第2編 自立に向けた生活支援〕 ○食事の支援 ○排泄の支援 ○入浴・清潔保持の支援 ○身じたくの支援 ○介護職員初任者研修実技試験	・実技試験 ・小テスト等 ・レポート	・実技試験 ・小テスト等 ・レポート	・授業・実習での行動観察 ・提出課題
	評価点	100点	100点	100点
後期	○レクリエーションの支援 〔第3編 緊急時・災害時の支援〕 ○緊急時の支援 ○災害時の支援 〔第4編 終末期の支援〕 ○終末期の支援	・実技試験 ・小テスト等 ・レポート	・実技試験 ・小テスト等 ・レポート	・授業・実習での行動観察 ・提出課題
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔第2編 自立に向けた生活支援〕 ○ <u>食事の支援</u> 口腔ケア、食事の意義	4
	5	○ <u>排泄の支援</u> トイレ介助・便器介助・おむつ交換・陰部洗浄	4
		○ <u>入浴・清潔保持の支援</u> 入浴の意義、支援の技法	4
	6	○ <u>身じたくの支援</u> 身じたくの意義、更衣の支援	7
	7	※実技試験対策	12
	8		
	9	○ <u>介護職員初任者研修 筆記テスト・実技テスト</u>	2
		前期の学習のまとめ ・前期に学んだ介護職員初任者研修内容理解の確認	2
後期	10	○ <u>レクリエーションの支援</u> 介護予防	8
	11	レクリエーション計画と実習	8
	12	〔第3編 緊急時・災害時の支援〕 ○ <u>緊急時の支援</u> 外傷・やけど・骨折・その他についての処置	3
		○ <u>災害時の支援</u> 災害時の避難場所、被災地での支援、被災者への支援	3
	1	〔第4編 終末期の支援〕 ○ <u>終末期の支援</u>	11
	2	終末期のケア・介護の役割、グリーフケア	
	3	後期の学習のまとめ ・後期に学んだ介護職員初任者研修内容理解の確認	2

5 その他

介護の必要な人の生活支援技術について詳しく学びます。身体援助における基礎的な内容でグループワーク・演習・校内実習があります。例えば、おむつ交換、食事介助、洗髪介助などの実習となります。介護の専門用語を身に付け、技術を実施できるように学びましょう。介護職員初任者研修の履修内容には、下線を引いています。基礎基本を大切にできる介護実践を実践していきましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	福祉・こころとからだの理解	単位数	2(通年)
		学年等	平日登校コース・2年次

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1) 認知症や障害、こころとからだの基本的な知識を理解しているとともに、介護や看護等に関連する人間のからだのしくみについて、概要を説明することができる。また、地域包括ケアシステム時代の中、支えあいやサポート体制について基本的な制度の知識を身に付け、活用することができる。 (2) からだのしくみについての確にとらえ、からだとこころの働きについて、思考を深め、表現することができる。福祉的なものの見方を踏まえ、生活支援技術と関連させて介護実践に適切に活用できるよう、介護の根拠を考え判断し、表現することができる。 (3) 授業での学びだけではなく、テレビや新聞記事等から積極的に情報収集を行い、福祉の昨今の動向や、他教科と関連させながら、幅広い知識を身に付けるなど、こころとからだについて探究できる。
使用教科書 副教材等	こころとからだの理解(実教出版) 介護職員初任者研修テキスト(公益財団法人介護労働安定センター)

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	認知症や障害、こころとからだの基本的な知識を理解しているとともに、介護や看護等に関連する人間のからだのしくみについて、概要を説明することができる。また、地域包括ケアシステム時代の中、支えあいやサポート体制について基本的な制度の知識を身に付け、活用することができる。	からだのしくみについての確にとらえ、からだとこころの働きについて、思考を深め、表現することができる。福祉的なものの見方を踏まえ、生活支援技術と関連させて介護実践に適切に活用できるよう、介護の根拠を考え判断し、表現することができる。	授業での学びだけではなく、テレビや新聞記事等から積極的に情報収集を行い、福祉の昨今の動向や、他教科と関連させながら、幅広い知識を身に付けるなど、こころとからだについて探究しようとする。
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	〔第1編 こころの理解〕 こころの理解 からだのしくみと理解 〔第2編 生活動作に関するこころとからだ〕 生活動作・生活場面の变化のこころとからだ 〔第3編 発達と老化の理解〕 人間の成長と発達 老年期の理解と日常生活 高齢者と健康	・定期考査等 ・小テスト ・レポート	・定期考査等 ・小テスト ・レポート	・授業・実習での行動観察 ・提出課題
	評価点	100 点	100 点	100 点
後期	〔第4編 認知症の理解〕 認知症をとりまく状況 認知症の基礎的理解 認知症に伴う心身の変化と日常生活 認知症と地域サポート 〔第5編 障害の理解〕 障害の基礎的理解 生活機能障害の理解 障害に伴う心身の変化と日常生活 障害と地域生活支援	・定期考査等 ・小テスト ・レポート	・定期考査等 ・小テスト ・レポート	・授業・実習での行動観察 ・提出課題
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔第1編 こころの理解〕 こころの理解 ・生活と健康 ・人間の欲求の基本的理解 ・動機付け ・自己概念と尊厳	16
	5	・思考、感情のしくみ ・学習、記憶のしくみ ・知能のしくみ ・適応と防衛機制 からだのしくみと理解	
	6	・生命維持、恒常性・脳、神経系 ・運動器系 ・呼吸器系 ・感覚器系・内分泌系 ・泌尿器系・生殖器系 ・血液、免疫系	
		前期中間審査	1
	7	〔第2編 生活動作に関するこころとからだ〕 生活動作・生活場面の变化のこころとからだ ・身じたく ・移動 ・食事 ・入浴 ・排泄 ・睡眠、休養 ・感染 ・緊急時 ・災害時 ・終末期	10
	8	〔第3編 発達と老化の理解〕 人間の成長と発達 ・発達段階・発達課題	6
	9	老年期の理解と日常生活 ・老年期の定義 ・加齢による心身の変化 ・高齢者の心理 高齢者と健康 ・生活上の留意点 ・健康の維持 ・保健、医療職との連携	
		前期の学習のまとめ	2
後期	10	〔第4編 認知症の理解〕 認知症をとりまく状況 ・認知症ケアの歴史 ・認知症高齢者の現状 認知症の基礎的理解 ・認知症の症状 ・認知症の診断 ・主な病気の特徴	16
	11	認知症に伴う心身の変化と日常生活 ・特徴的な症状 認知症と地域サポート ・地域におけるサポート体制 ・家族への支援	
	12	後期中間審査	1
		〔第5編 障害の理解〕 障害の基礎的理解	16
	1	・障害の概念 ・障害者福祉の基本理念 生活機能障害の理解 ・身体障害 ・精神障害 ・知的障害 ・発達障害 ・高次脳機能障害 ・難病	
	2	障害に伴う心身の変化と日常生活 ・障害者の心理 ・障害に伴う日常生活の変化 障害と地域生活支援 ・地域生活上のサポート体制 ・家族への支援	
	3	後期の学習のまとめ	2

5 その他

人間のこころとからだについて詳しく学びます。対人援助、特に身体援助における基礎的な内容です。専門用語や介護用語の知識を身に付け、生活支援技術と関連付け、積極的に学習を進めましょう。この科目は介護職員初任者研修の履修内容です。定期審査では、70%以上の得点を目標とし、介護職員初任者研修における学習事項と並行して理解を図りましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	福祉・サービスマナー	単位数	4(前期2+後期2)
		学年等	平日登校コース・4年次

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	(1) 福祉実践の場でのコミュニケーションや接遇について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 (2) 福祉実践の場でのコミュニケーションや接遇に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉実践の場でのコミュニケーションや接遇に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。
使用教科書 副教材等	サービス接遇検定3級 公式テキスト(早稲田教育出版) 福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 改訂6版(東京商工会議所)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	福祉実践の場でのコミュニケーションや接遇について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。	福祉実践の場でのコミュニケーションや接遇に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉実践の場でのコミュニケーションや接遇に主体的かつ協働的に取り組む態度を養おうとする。
評価点	300 点	300点	300点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	サービス接遇マナー サービススタッフの資質、専門知識 対人技能、一般知識、実務技能 第1章 暮らしやすい生活環境を目指して	・定期考査等 ・確認テスト等 ・学習課題等	・定期考査等 ・確認テスト等 ・学習課題等	・授業観察 ・提出課題 (レポート)
	評価点	150 点	150 点	150 点
後期	第2章 健康と自立を目指して 第3章 バリアフリーとユニバーサルデザイン 第4章 安全、安心、快適な住まい	・定期考査等 ・確認テスト等 ・学習課題等	・定期考査等 ・確認テスト等 ・学習課題等	・授業観察 ・提出課題 (レポート)
	評価点	150 点	150点	150 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	サービス接遇マナー ○サービススタッフの資質 ・必要とされる要件、従業要件	4
		○専門知識 ・サービス知識、従業知識	4
	5	○対人技能 ・人間関係、接遇知識、話し方、服装	8
		○一般知識 ・社会常識	8
	6	○実務技能 ・問題処理、環境整備、金品管理、金品搬送、社交業務	8
		確認テスト	1
	7	第1章 暮らしやすい生活環境を目指して ○少子高齢社会と共生社会への道	10
		○福祉住環境整備の重要性・必要性	10
	8	○在宅生活の維持とケアサービス	12
	9	前期期末考査	1
後期			
		前期の学習のまとめ	4
	10	第2章 健康と自立を目指して ○高齢者の健康と自立 ○障害者が生活の不自由を克服する道	8 8
	11	第3章 バリアフリーとユニバーサルデザイン ○バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方	16
	12	確認テスト	1
		○生活を支えるさまざまな用具	10
	1	第4章 安全、安心、快適な住まい ○住まいの整備のための基本技術	12
	2	○生活行為別にみる安全・安心・快適な住まい	10
		後期期末考査	1
	3		
		後期の学習のまとめ	4

5 その他

サービス接遇検定、福祉住環境コーディネーターのテキストを軸に、最近の福祉に関わる政策やニュース等を扱います。日頃から、新聞テレビ等で福祉に関する情報をチェックしましょう。福祉に関する資格取得、高校卒業後福祉系の進学・就職を考えている生徒に対して必要な情報提供も授業の中で行います。目的意識をもって、履修するようにしてください。
※検定試験は希望者のみが受験します。(各自が申し込みをして受験することになります。)